

日頃から伝えよう “生まれてきてくれてありがとう”

問合先 学校教育課 ☎32-1438

いじめ認知件数の増加

いじめは、子どもの命（心）に多大な影響を与える恐れがあります。

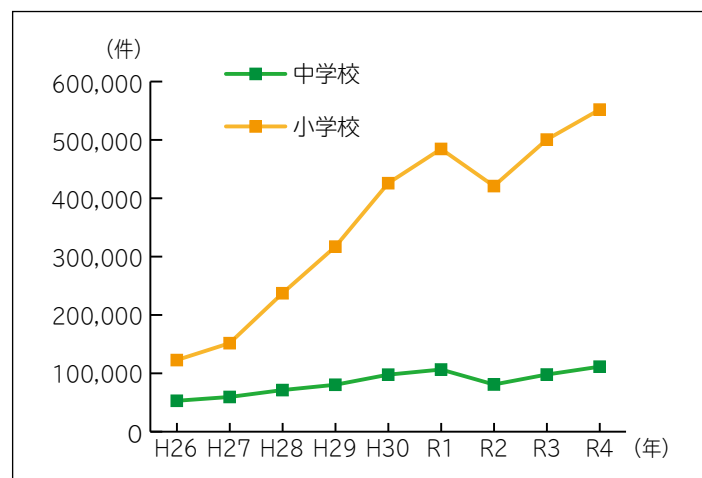
令和4年度に行われた文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」で、小・中学校におけるいじめ認知件数は過去最多を更新しています（図1）。

いじめの態様として最も多いのは、小・中学校ともに「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」で、全体の半数以上になります。次いで「軽くぶつかられる、遊ぶふりをして叩かれる・蹴られる」となっています（図2）。

これらのことから、いじめの始まりは日常のささいな悪ふざけであり、いじめの被害（加害）は、いつでも、どこでも、誰にでも起こりうると考えられます。



【図1】いじめの認知件数の推移（文部科学省調査）



【図2】いじめの態様別状況（文部科学省調査）

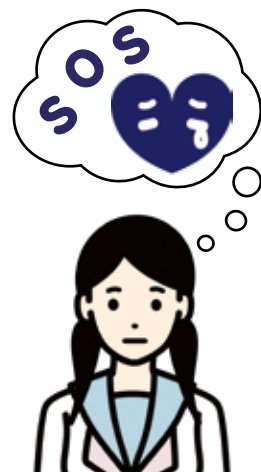
いじめの態様	小学校	中学校
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	56.4%	62.0%
軽くぶつかられる、遊ぶふりをして叩かれる・蹴られる	25.7%	14.3%
仲間外れ、集団で無視をされる	12.2%	9.0%

いじめを生み出さないために

いじめの被害を生み出さないために必要なことは、新たな加害者を出さないことです。加害者が生まれなければ、いじめは起きません。

自分の子どもをいじめの加害者にしないために大切なことは、子どもの自己肯定感を育むことです。自己肯定感とは、「自分は大切な人間で生きている価値がある」という気持ちのことで、自己肯定感が育まれることで、自分と同じように相手を大切にしようとする気持ちが芽生えます。また、「いじめは、犯罪である」という認識を子どもに教えることも大切です。

逆に、自己肯定感が欠如することにより、非行、自死、いじめ加害といった問題行動が表面化していきます。子どもの問題行動の多くは、「自己肯定感が欠けている」というSOSのサインでもあるのです。



学校の先生が行っていること

- 子どもの心に寄り添いながら、子どものありのままの言葉、気持ちを受け止める
- 話してくれた子に「よく話してくれたね」「話してくれてありがとう」とねぎらいの言葉を伝える
- 警察や児童相談所などの多機関と連携し、子どもの命を守ることを最優先に行動する



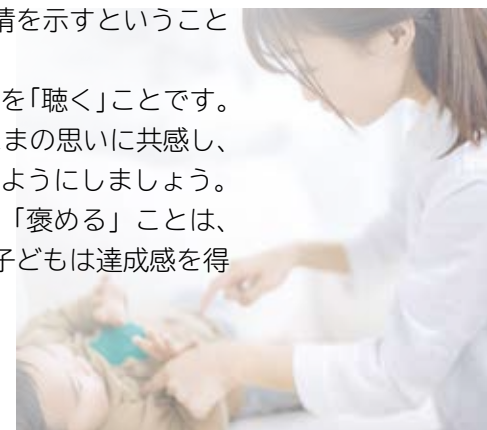
子どもたちを見守るあなたへ

自己肯定感を育むために大切なことは、親から子へしっかりと愛情を示すということです。

子どもへの愛情の示し方として挙げられることは、子どもの気持ちを「聴く」ことです。子どもの怒り、悲しみ、喜びなどさまざまな感情を否定せず、ありのままの思いに共感し、「あなたの思いを最後まで聴いているよ」という姿を子どもに見せるようにしましょう。

次に、子どもの行動をたくさん「褒める」ことです。親が笑顔で「褒める」ことは、子どもの安心感につながります。こうした経験が積み重なることで子どもは達成感を得て自信がつき、それが自己肯定感を育むことにつながるのです。

そして、一番大切なことは、「生まれてきてくれてありがとう」と「伝える」ことです。日頃から伝えることで、子どもが「自分は大切な存在である」と実感もてるようにしましょう。



いじめ・不登校など、こどもの人権にかかわる悩み事・心配事のほか、子育てに関する悩み事などを相談できます。一人で悩まず気軽に相談してください。

●こどもの人権110番 ☎0120-007-110
午前8時30分～午後5時15分（平日）

●子どもSOS ほっとライン24 ☎0120-0-78310

●LINEじんけん相談
ID…@linejinkensoudan

●教育相談「こころの電話」 ☎052-261-9671
午前10時～午後10時

●子ども・家庭110番 ☎052-953-4152
午前9時～午後5時（平日）

●子育て相談室「なのはな」 ☎0587-34-4159
午前8時30分～午後5時（平日）

